

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	橋りょう維持補修事業			事業コード	1759
所属コード	155000	課等名	[玉山]建設課	係名	建設グループ
課長名	千葉 吉信	担当者名	高橋 純哉	内線番号	4400-237
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	快適な住居環境の実現	コード	3
	基本事業	生活道路環境の向上	コード	1
予算費目名	一般会計 8 款 2 項 5 目 橋りょう維持管理事業 (001-01)			
特記事項	総合計画主要事業			
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	H20 年度～	
根拠法令等	道路法			

(2) 事務事業の概要

老朽化の進む橋りょうについて補修・修繕を進める

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

平成 20 年度より開始。長寿命化修繕計画の策定及び老朽化の進む橋りょうの補修を行う必要が生じた。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

全国的に橋りょうの長寿命化の動きはすすんでいる。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

老朽化している橋りょう

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 整備計画橋りょう数	基	3	3	3	3	3
B						
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

橋りょう補修工事

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 累計整備橋りょう数	基	0.5	1	1.5	1.5	3.0
B						
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

橋りょうを早急に補修することにより, 橋りょう寿命を長くする

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 整備率	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	17	34	50	50	100
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	2,583	2,439	3,300	2,290
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	2,115	1,997	2,700	1,876
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	4,698	4,436	6,000	4,166
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	200	200	200	200
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	800	800	800	800
計	トータルコスト A+B	千円	5,498	5,236	6,800	4,966
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている

周辺住民の重要な生活道路であるため、安全の確保、道路環境の向上が必要不可欠である。

② 市の関与の妥当性

妥当である

理由：法定事務である。

③ 対象の妥当性

拡大または絞る余地がある

理由：他路線にも同様に老朽化した橋りょうがあることから、今後それらの橋りょうも含め整備を図る必要がある。

④ 廃止・休止の影響

影響がある

その内容：橋りょうの劣化が進行していくため、道路の安全な通行が損なわれる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地がある

その内容：橋りょうと併せて道路改良を行うことにより、より効率的な整備を行うことが出来る。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

（受益機会の適正化余地）

特定の受益者はいない。

（費用負担の適正化余地）

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

（事業費の削減余地）

削減できない

理由：必要最低限の工法で整備を図っているため、削減は難しい。

（人件費の削減余地）

削減できない

理由：工事費等の積算は電算システム導入により事務時間の削減が進んでおり、これ以上の削減は難しい。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

橋りょうの補修・架け替えのみでは局所的な解消にしかならず，道路改良と併せた一体的な路線整備を行い，より効果的な整備を図る必要がある。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

財政状況が厳しい中ではあるが，計画的に整備を行うため，事業費確保が必要である。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

- ・老朽化が著しい市道の橋について、補修工事を行った。
- ・安全・安心して利用できる市道の橋の補修工事を行いながら、工事に当たっては、施工方法など見直しを行いコスト縮減に努める。
- ・